

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	港区立虎ノ門高齢者在宅サービスセンター（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区虎ノ門1-21-10	指定管理者	医療法人財団 百葉の会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 （共同事業者の場合記入）	令和7年3月までの改善状況等 （指定管理者記入欄）	令和7年4月以降の取組予定 （指定管理者記入欄）	所管課確認欄 （施設所管課記入欄）
個人情報の取扱いは、区の最重要事項であり、施設では紙の個人情報は鍵付きラックで管理されている一方、データが保存されたサーバーは、施設長の事務机下に防御柵のない状態で置かれており、事務所内に出入りする職員や委託事業者に持ち出される危険性がある。 このため、個人情報のデータを保存しているサーバーは、鍵付き防御柵の中に入れ、サーバーを防御柵に付けたワイヤーで固定する等の対策を講じ、サーバーを職員や部外者が持ち出せないよう安全対策を講じることが望まれる。		PCのサーバーをワイヤーで固定し施錠した。	今後もワイヤーによる固定を継続していく。	当該機器について、セキュリティワイヤーによる盗難・紛失対策の実施を確認した。
各帳票等のデータ連携など、業界でも徐々にICT化による業務の効率化の流れが進められている。 システムの変更・導入には、予算の検討や職員の研修等、メリットとデメリットを検討していく必要がある。港区とも調整・相談を行いながら検討を重ね、将来的にも時代の流れに即した取組を選択し、段階的に進めていく必要がある。		港区の各帳票等のデータ連携に関する研修に参加し、理解を深めた。 ICT化についても、港区の補助金制度（介護保険課）を活用できるよう相談会にも参加したが、今年度は設備面での課題があり、導入には至らなかった。	生産性向上委員会を設置し、定期的に委員会を開催していく。時代の流れに即した取組が出来るように、チームで検討を重ねていく。 また、ICTの導入に向け、港区の相談会に参加し、介護ソフトとインカムの導入を進めていく。	港区の研修や相談会への参加を通じて、ICT導入に向けた理解を深めた。設備面の課題から導入には至らなかったものの、今後の導入に向けた準備が進められた。 今年度は、新設した生産性向上委員会を中心に、介護ソフトやインカムの導入に関する検討を進め、業務効率化と職員の負担軽減につながる具体的な成果を期待する。
今年度から、書道講師（ボランティア）の対面による指導を再開した。 一方、交流を中止している小・中学生から、多数のメッセージが寄せられるほか、いきいきプラザの利用者、地域のボランティアとはリモートでの交流機会をもっている。コロナ禍以前は、地域の交流拠点として、多数のボランティアや実習生を受け入れ、多世代交流に取り組んでいた。 ボランティアの受け入れや多世代交流は、利用者にとって貴重な体験となることから、感染症対策を徹底しながら、交流方法の検討が望まれる。		夏のボランティアを募集したが、参加希望がなかった。 書道ボランティアやオンラインでの田町長寿会（コーラス）との交流を継続的に実施した。また、虎ノ門いきいきプラザ開催のカフェコンサートにも参加した。	新たにピアノやコーラス、折り紙、落語のボランティアを受け入れていく。 スペイン語の傾聴ボランティアの受入を継続するとともに、社協によるボランティア交流会にも参加し、新たなボランティアや学生ボランティア（夏バージョン）にも積極的に応募していく。	書道やコーラスなどの継続的な交流活動に加え、いきいきプラザでの地域イベントへの参加など、地域とのつながりを維持できていた。 ボランティアの募集が参加につながらなかったことは課題であるが、新たな取組も始まっており、今後の広がりに期待できる。 今年度は、感染症対策を講じつつ、多世代交流の再活性化とボランティア受け入れの一層の充実に期待する。